

短い秋が終わり、冬が到来しました。今年最後のカスタネット通信12月号は、みなとみらいで開催された日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会の報告と、短日処理を始めたオギジビのポインセチアの続報です。

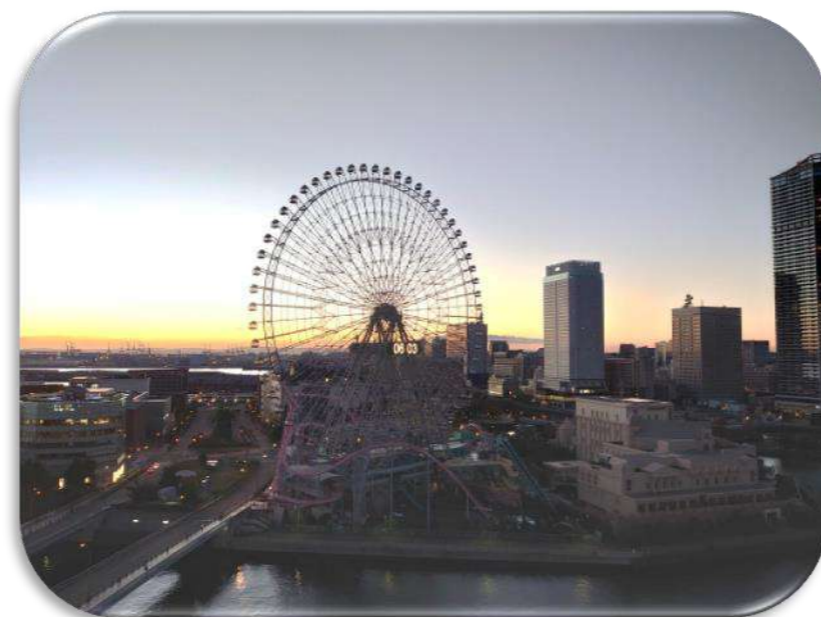
臨床医会セッション

11/18(土)、19(日)にパシフィコ横浜で、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会が開催されました。秋季大会は、個人が研究成果や臨床経験を発表する一般的な学会とは異なり、耳鼻科医の生涯教育を目的とした講習、補聴器相談医の委嘱および更新のための講習が行われる大会なのだそうです。補聴器相談医は「日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会が規定する講習カリキュラムのすべてを履修した耳鼻咽喉科専門医に対して理事長が委嘱を行うもの」とのことです。難聴のある人が、個々人に合った補聴器を選択して活用できることを目指す、補聴外来を行う上では重要な資格ですね。



豪華なクリスマスツリー

秋季大会と合同開催された日本臨床耳鼻咽喉科医会のセッションで、私は講師を務めました。セッションのテーマは「日本の補聴器普及率を向上するためにできること」でした。2010年に65歳以上の高齢者の割合が人口の21%を超え、超高齢社会を迎えた日本では、限りある社会保障制度を持続させるために、健康寿命つまり「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」を伸ばすことが不可欠とされています。難聴と関わりがあるとされる社会的孤立から生じるうつや認知症は、この健康寿命の延伸を妨げるものと考えられています。そして難聴のある人が補聴器を活用することで、これらの発症に予防的に働くのではないかという報告も少なくありません。しかしながら、日本の補聴器普及率は欧米諸外国と比して明らかに低率です。



← みなとみらいの夜景(左)と朝焼け(右)
夜は遊園地のアトラクションがキラキラしていました。
朝はとても静か。

ふわふわパンケーキ→
マカダミアナッツソース
がたっぷりかかって激甘



なぜ補聴器普及率が低いのか、医療機関はどういった役割が果たせるか、セッションでは2人の耳鼻科医が「現状の問題点と耳鼻咽喉科医の役割」「補聴器外来の作り方と実際」という内容で、私は言語聴覚士の立場から「医師・認定補聴器技能者との協働」という内容でお話をしました。認定補聴器技能者とは、「公益財団法人テクノエイド協会が、厳しい条件のもと、補聴器について基準以上の知識や技能を持つことを認定して付与する資格」です。オギジビの補聴外来にも来て、試聴補聴器の選択、調整、購入補聴器の点検などを行っています。



セッションでは、以前行った地域包括支援センター主催の介護予防教室などの院外活動、待合室に掲示してあるポスターやカスタネット通信などの院内活動を紹介しました。これらの活動を通して聞こえや難聴、補聴器について啓発を続けていくことが、人々が自身の聞こえに目を向け、聞こえにくさに気づき、補聴器を考え始めるきっかけとなり、耳鼻科受診に繋がるのではないかと、というお話をしました。また、補聴器の試聴を始めた人に対し、言語聴覚士が医師・認定補聴器技能者とどのように協働して試聴を進めていくのかということ、補聴外来のデータや試聴期間中に使用している補聴器に関する説明書や記録用紙を示しながら説明しました。オギジビの補聴外来は、医師、言語聴覚士、認定補聴器技能者がそれぞれの強みを生かして、皆さんの補聴器との出会いを支える機能を果たしているのではないかと思います。

相模原市では、今年度末までと期限はありますが、高齢者補聴器購入費助成事業が行われています。そのため、地域包括支援センターから紹介されて受診される方もいらっしゃいます。また最近、ご自身が補聴器を装用して良かったからとご友人に紹介して下さる方もいらっしゃいます。必要な方々に補聴器が普及していくためには地域の繋がりも重要だと感じています。



感謝状をいただきました。

ポインセチアのその後



カスタネット通信11月号に書きました、オギジビのポインセチアの続報です。クリスマスシーズンとなり、街の花屋さんできれいに色づいたポインセチアやシクラメンがたくさん並んでいます。一方、10月半ばから、葉を赤くするための短日処理を毎日欠かさず行い1カ月が経過したオギジビのポインセチアには、赤い葉っぱが数枚生えてきました！でも「真っ赤」ではなく「まだら」です。残念ながら今シーズンの短日処理は満足いく成果は得られなかったため、来シーズンに向けての覚書です。

【短日処理は9月頃から始める】

今シーズンは10月半ばから短日処理を始めましたが、これでは遅すぎました。11月に入るとどんどん気温が下がってきます。ポインセチアはメキシコで暑さや乾燥には強いけれど、寒さや加湿には弱いそうです。クリスマスシーズンに見かけるのに意外でした。10℃以下になると枯れてしまうので、冬場は部屋の中に置かなければいけないのですが、短日処理中の夜のオギジビは室内でも寒くなっているのと、休みの日は一日中暗闇の中に置かれるので、日照不足になっていると思われます。そして、10月になってしまうとポインセチアの成長期が終わってしまっているため、短日処理をしても新しい葉っぱがなかなか生えてきません。その点、9月であればどんどん新しい葉っぱが生えてきていたので、きっと赤い葉っぱがたくさん生えてくることでしょう。



ズームイン



毎朝、暗闇からポインセチアを取り出すとき、葉が赤くなっているか、寒さで枯れているかドキドキなので、そろそろ今シーズンの短日処理は終わりにしようと考えています。